



療育支援プロジェクト

# 障がい児のストレングスを 活かした療育活動

強みを起点に「できる」を広げる支援設計



Presenter

サクスシェア 主任相談支援専門員 田中 聡

Date

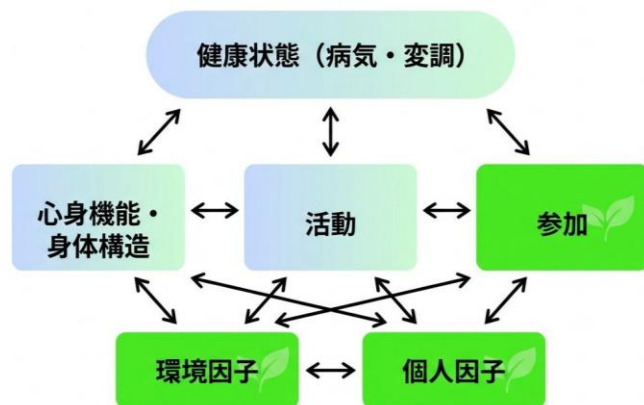
2026年1月28日



# ストレングス アプローチとは

ICFモデル（国際生活機能分類）

ストレングスの視点



各要素は相互に影響し合う



## 強み・興味・成功体験が出発点

苦手な克服ではなく、子どもの「好きなこと」「できること」を起点に支援を構築します。



## ICFの視点で「参加」を最大化

機能・活動だけでなく、環境因子を含めた視点で社会的な「参加」を目指します。



## 自己効力感・選択の尊重・協働

子ども自身の「やりたい」を尊重し、保護者・支援者とチームで協働します。



## 環境調整と合理的配慮

本人の努力のみに頼らず、強みが活きるように環境側を調整します。



## 長期的なウェルビーイング

目先の技能獲得だけでなく、将来にわたる幸福と社会参加の促進を目的とします。

# 従来アプローチとの違い

## 📁 課題ベース（従来）

🔍 注目点  
「何ができないか」に注目

🔧 手法  
訓練中心・一律の基準

👤 決定権  
専門家主導で目標設定

🚫 行動対応  
問題行動の抑制を優先

⌚ 成果  
短期の技能獲得



## 🌿 ストレングスベース

🔍 注目点  
「何ができる／好きか」に注目

🌳 手法  
環境調整・多元的評価

👥 決定権  
本人・家族と協働で合意

💡 行動対応  
行動の機能理解と置き換え

😊 成果  
参加・自立・満足度 (QOL)

# 療育活動設計の基本原則

効果的な支援のために考慮すべき7つのチェックポイント



## 安全・予測可能性

- ▶ 見通しの提示、ルールの明確化、安心できる環境



## 選択肢と自律

- ▶ 自分で選べる活動、役割の付与、自己決定の機会



## 段階化（スモールステップ）

- ▶ 達成可能な目標設定、適切な足場かけ



## 視覚支援の活用

- ▶ 絵カード、写真、タイマー、実物による情報提示



## インクルーシブな設計

- ▶ UDL（学びのユニバーサルデザイン）、感覚過敏への配慮



## 楽しさと意味づけ

- ▶ 内発的動機づけ、興味関心との結合



## 家庭・学校との一貫性

- ▶ 生活場面への般化（一般化）、連携した目標設定



Check!

活動計画時にこれらを網羅しているか確認

# ストレングスの見つけ方・アセスメント

子どもの「できる」と「好き」を発見するための7つのアプローチ



## 多元的情報収集



- ▶ 本人・保護者・学校・過去の記録など、多角的な視点から情報を集める



## 系統的観察



- ▶ どの活動なら関心が持続するか、どんな提示形式が得意かをじっくり観察



## 成功体験の分析



- ▶ 過去にうまくいった事例を分析し、何が成功の強化要因だったのかを探る



## 興味関心リスト・嗜好評価



- ▶ 好きな人・物・活動・キャラクターをリストアップし、好みを把握する



## 学習スタイルの把握



- ▶ 視覚優位・聴覚優位・身体感覚など、本人が情報を処理しやすい方法を知る



## 感覚プロフィールと環境



- ▶ 光・音・触覚などの感覚特性や、落ち着ける環境条件（座席・動線）を確認



## 記録・共有（可視化）



- ▶ 写真や動画で記録し、支援チーム全体で「できた」瞬間を共有・再評価



Focus!

「できないこと」ではなく  
「できること」のリストを作る

# 活動計画作成の具体的留意点

実践的かつ効果的な計画を立てるための7つの要点



## 目標設定 (SMART + GAS)



- ▶ 具体的で測定可能な目標、達成度の可視化 (GASの活用) ※GAS (Google Apps Script)



## 最適負荷とリスク管理



- ▶ 挑戦可能な難易度 (ゾーン) 設定、体調・安全への配慮



## 役割分担と支援手順



- ▶ 「誰が・いつ・どう」支援するかを明確に定義する



## モニタリングとPDCA



- ▶ 定期的な評価周期 (例: 4~8週) と計画の見直し



## 家庭連携と般化



- ▶ 宿題化せず、生活場面でスキルを使える機会を設計



## ICTの活用



- ▶ タイマー、スケジュール、動画記録アプリの有効活用



## 同意・尊厳の保護



- ▶ 本人の同意 (アセント)、プライバシー配慮、拒否権の尊重



## Point

計画は固定的なものではなく、  
子どもの反応に合わせて柔軟に更新を！

# 5領域を活かした支援の視点

## 健康・生活



- 写真手順で身支度：  
視覚的見通しで不安軽減、  
自立促進
- 見通しボード：  
1日の流れを可視化し、情緒安定

## 運動・感覚



- 感覚調整コーナー：  
クールダウンや刺激調整の  
場所確保
- 運動遊びで覚醒調整：  
身体を満たし、学習への  
集中向上

## 認知・行動



- タスク分析：  
課題を細分化し達成感を  
積み重ねる
- トークン・強化子：  
好ましい行動直後に視覚的評価

## 言語・コミュニケーション



- 視覚支援・代替手段：  
PECS等を用い、自発的な要求を促す
- 語彙の機能的学習：  
好きな遊びの中で生きた言葉を学ぶ

## 人間関係・社会性



- 小集団での役割付与：  
「配る係」など強みを活かし貢献体験
- 協働ゲームでの成功：  
ルール遊びで勝ち負けや順番を経験

# 実践における注意事項



## 安心と安全

子供の尊厳を守る  
最優先事項



### 尊厳・選択の尊重

無理強いは避け、拒否する権利を保障する。本人の意思決定を最優先に。



### 過敏/過負荷の予防

感覚刺激を調整し、適切な休息（クールダウン）を計画に組み込む。



### 二次障害の予防

失敗体験の繰り返しを防ぎ、自己肯定感を育てることで精神的安定を図る。



### 行動の機能理解

問題行動には理由がある。「求めていること」を適切な代替手段で満たす支援を。



### 文化・家族文脈の尊重

各家庭の価値観や言語的背景を尊重し、一方的な支援観を押し付けない。



### 客観的な記録

印象ではなく、事実・頻度・所要時間などで記録し、変化を客観視する。



### チーム内振り返り

短時間でも高頻度でレビューを行い、支援のズレを早期に修正する。



# 成功のポイントと具体例

強みを活かした介入による行動変容と成果の実績



## CASE 01

### 視覚優位を活かす

絵スケジュールとチェックリストを活用し、声かけなしでの自立移行を支援

#### Results

切り替え時間

**-40%**



声かけ回数

**-50%**



## CASE 02

### 音楽の強みを活用

活動転換時にリズム合図を使用し、手順を歌詞に乗せて記憶を促進

#### Results

抵抗行動

**-60%**



活動参加率

**+30%**



## CASE 03

### 運動好き×役割付与

「配達係」「準備係」など身体を使う役割を与え、責任感と達成感を醸成

#### Results

逸脱行動

**-35%**



社会的やり取り

**+25%**



#### Common Factors

共通する成功の要因

✓ 小さな成功の連続    ✓ 環境調整    ✓ 家-園の一貫性

# まとめと次のステップ

強み起点のアプローチで、子どもの「参加」と「可能性」を広げる



強み起点

×



環境調整

×



チーム協働

=

参加の拡大

Well-being

1



強みリスト化

アセスメント情報を  
基に、子どもの得意  
・好きを書き出すワ  
ークを実施

2



スモール試行

1つの活動を選定し  
、ストレンクスを活  
用した支援をまずは  
試す

3



効果測定

時間・頻度・本人の  
満足度など、客観的  
な指標で変化を確認

4



PDCA・共有

4～8週間で振り返り  
。うまくいった要因  
をチームで共有し一  
般化へ